

あだたら

第413号
発行所 久田町の部
山口市喜多山
あだたら山部
編集

三月十二日(日)

三月山行、五十人山

報告 □□□□

もう春爛漫の登山日和になりました。八時に二本松を出発、松川を廻り三名で九時三十分、五十人山の菅ノ又登山口へ到着しました。登山口で飯野町からの□□さんと合流し九時四十五分登山を開始しました。登山道には直ぐにリスが食べた後のエビフライが百個ほど固まってあったり、狸が縄張りを主張しているかのような糞の山があったりで、震災の

後に動物が活発しているのを感じました。登山道五合目は予定通り十時三十分通過し、途中のあづまや(四阿)で休息しました。その後から馬酔木の群生が出現し、整備された、登山道を進むと山頂には雪が残りました。山頂には三名が湯ノ平登山口から山頂をめざし、既に美味しい弁当を広げ、談笑中でした。七名で合流し、ゆっく

り食事を取り、春の訪れを堪能しました。十二時十分下山を開始し、四名は五十人山周回をし、三名は湯ノ平登山口、山頂まで四十分の所の駐車場なので、別行動を取りました。登山道にはピンク・赤・オレンジさらには木々に真っ赤なペンキと、どれが目印なのか、判らなくなる程でした。登山道を下山し、国道を歩き、葛尾村の「せせらぎの湯」前で親切な地元ドライバーにマイカーを留めている菅ノ又登山口まで送ってもらい、再度「せせらぎの湯」前で飯野町まで戻る□□さんと別

●編集部連絡先
二本松市郭内1-515
0243(22) 4245
Fax可 渡辺 正

三月五日午後十一時八分、元会長□□□□さんが内臓疾患にて、お亡くなりになりました。七十八歳でした。一九九六(平成八)年に故□□□□さんから会長職を受け継ぎ、二〇〇八(平成二十)年に□□□□さんに引き渡すまで、十二年間、会長職を勤められました。ご冥福をお祈りします。

元会長、□□□□さん 逝去

三月五日(日)



昨年12月8日二本松スポーツ協会会長就任祝賀会にて撮影

三月五日午後十一時八分、元会長□□□□さんが内臓疾患にて、お亡くなりになりました。七十八歳でした。一九九六(平成八)年に故□□□□さんから会長職を受け継ぎ、二〇〇八(平成二十)年に□□□□さんに引き渡すまで、十二年間、会長職を勤められました。ご冥福をお祈りします。

事ができまませんでした。□□□□さんとの出会いは三年前に私があだたら山の会に入会した時で一番最初、山を一緒に歩いた時に優しく迎え入れてくれ、「若い人が入ってくれてよかったです」ととても喜んでくれました。以前は私の職場から□□□□さんのご自宅が近いこともあり何度かお孫さんを連れてお会いする事もありお孫さんにはとても優しいおじいちゃん的印象でしたが山になるととても真剣で時には山の厳しさを自らの体

験の中から教えて頂きました。□□□□さんは山の事を質問すると色々な事を教えてくれ、特に若い時、山に登った話などはとても面白く、ただ山に登る技術を教えてくれるのではなく人として本心に尊敬できる方でした。伝統ある山の会を長年努められ私が会長を任される時には若輩の私を気にかけてくれ「責任は俺が取るので好きにやれ」と言って頂き本当に頼りにさせて頂きました。昨年の暮れに遅くなって

しまったスポーツ協会会長就任のお祝いの席で山の話を楽しそうにしているお顔を昨日の事のように思い出します。山の会、創立にもご尽力されその多大なる功績は若輩な私などが語らずとも多くの方がご存知だと思います。福島国体の山岳競技では誘致、運営と積極的に行動して活躍された話を多くの方からお聞きします。長年、山の会を先頭に立てて導いてくれた方がいなくなり不安で一杯でありましたが□□□□さんの思いを継

いで、強く結束を固めていく所存です。安達太良の山のようなふところの深さを持つ□□□□さんですからこれからは山の上から私たち見守っていてください。これまで本当にありがとうございました。ご冥福を心からお祈り申し上げます。令和五年三月十三日 会長 □□□□



11時16分、合流して写真



北峰の五十人石

行動となりました。それにしても葛尾村の新しい道路・橋・建物・工場分譲地の広々とした風景に、ここまで変化したのかと驚きました。十五時に二本松に着きました。五十人山を一周でき三時間歩行時間でしたが、大満足な山行となりました。



「弘法大師」の右側に、少し小さく、彫りも浅い。田村麻呂 刻字発見 報告 渡辺正 五十人山の北峰、祠のある「五十人石」には「弘法大師」という刻字が見られる。「坂上田村麻呂」の刻字もあるというが見つかっていなかった。今回、それ程時間は無かったが、ジックリ探して見たら、見つかった。

三月五日 (日)

くるがね小屋最後の山行

報告 □□□□



下山しようとして小屋出たら、山頂から友達と一緒に下りて来た□□□さんと出会った。一緒に写真撮影した。

先日の新聞で、くるがね小屋建替のため、四月一日より、休みを知り、晴天の三月五日、奥岳より入山する。第一駐車場は満杯で、路肩駐車となる。入山届を出し、九時三十分出発、鳥川でアイゼンを着けていくと多くの登山者が登っている。スキーを着け、大きなザックの小屋管理人、待っているよと追い越して行く。登山道は歩きやすいが、

マイペースで休み休み登る。金明水・小屋下の水場のトラバースもクリア。小屋には十二時十五分に着く。多くの登山者が小屋前の雪の上での昼食を楽しんでいる。小屋の中には五、六人位。

くるがね小屋には、前の平屋の時からお世話になっていた。今回が最後になるのではないかとお礼を申し上げ休憩する。最後の風呂も

入る事が出来、最高、幸福を言える事が出来た。

多くの泊まり客が入って来た。午後二時にはくるがね小屋を後にする。新しい小屋が出来るまで頑張り、見たいと思っているが、無理であろう。午後三時三十分、下山。思い出残る「くるがね小屋」ありがとう。



三月二十日 (月)

箕輪山

報告 □□□□



12時24分、箕輪山頂から鉄山・安達太良山方面

昨日、思い立って箕輪に行ってきました。スキー場のインストラクターが言っていました。雪少ないです。一五〇m近くまで乗が出来る。アリフトが十二日で運転を終了していた為八時三十分運転開始の右側のコリフトを利用、そこからアリフト降り場を目指して林間コースを歩行開始。途中で左側に前日の登高トレースを見つけてさっそく便乗。

一五五〇m付近からはドボ潜りだしスノーシュー装着。しかし急斜面では十八日の十五cm程の新雪が下の硬い雪面から滑り落ちてきて小さな表面雪崩状態の連続。直登できずZ字型のジグザグ歩行を強いられ、山頂までの距離あと百m地点からはスノーシューでも所々ドボン状態となり予定の四十分遅れの十一時二十五分箕輪山頂着。山頂は貸

し切り状態。私もだが、連れの消耗が激しく、鉄山避難小屋行きは断念してゆっくり昼食し下山は主に横向温泉夏道を使い十四時三十分下山しました。
(三月二十一日受信)



磐梯山方面



吾妻と別格の飯豊連峰



4月1日の安達太良山、霞ヶ城公園天守台から

編集後記 四一三号

◆三月一日、福島民報投書「みんなの／＼ひろば」、□□□さん、「戦争に勝者なし／軍備拡大は反対」。

◆今年の三月は暖かかった。自宅室内の気温で見ると例年は月の大部分十℃を切っていた。今年は十℃を越えた日が多かった。

旧市内で一番早い亀谷鏡石寺のシダレサクラも二十三日に開花、昨年より二週間早かった。今年の夏はどうなるのだろうか。

◆個人山行の記事下さい、メールだと有り難いのです。が、手書きも歓迎、FAXも受信できます。